



第 1726 回例会

平成 24 年 11 月 19 日(月)

12:30~ 海南商工会議所 4F

1. 開会点鐘

2. ロータリーソング 「それでこそロータリー」
 3. ビジター紹介 和歌山アゼリア RC
 吉岡 恵美 様 小形 みちる様

4. 出席報告

会員総数 55 名 出席者数 26 名
 出席率 47.27% 前回修正出席率 67.27%

5. 会長スピーチ

会長 花田 宗弘 君



本日は、寺下会員にフィリピン パラワン島訪問の報告を受けることになっていますが、この機会に当クラブの世界社会奉仕の取り組みについてお話をさせて頂きます。丁度、今から 10 年前の 2002 年より今まで地区単位で行っていた WCS をクラブ単位で行うことになりました。理由は地区単位では大きなプロジェクトが出来るが、クラブが直接タッチすることがなく、一部の人のみの参加でクラブの奉仕活動としての意味が薄れています。クラブとしての参加意識がないということでありました。クラブ単位で行うとなると予算が少なく大きなプロジェクトが出来ないので、地区はクラブ活動資金の同額を補助してくれるなり、また小さなクラブは他のクラブと合同でプロジェクトを行うよう指導がありました。そこで海南 3 クラブに声をかけた所、西クラブが協力してくれることになり現在まで続いている。世界には援助を必要としている国は沢山ありますが、なぜフィリピンを選んだかと云うとアジアの中にあって各国共発展をしている中で、フィリピンだけが取り残されており奉仕の場が沢山あります。また貨幣価値が違うため日本円の価値が何倍にもなり効果が上がります。太平洋戦争の激戦地であったにも係わらず対日感情が悪くない等の条件が満たされています。セブ島のマンダウエイーストクラブとは 10 年の付き合いがあり、マングローブの植林、給水

設備、教育資材、医療等の援助を続けています。

また、一方ルパング島で戦った小野田氏の関係から数年に渡りルパング島民の生活向上のための鶏や子豚、カシュウナツツの植林等の援助を行ってきましたが、ルパング島 RC の内部分裂から現在は停止しています。

マンダウエイーストとの関係は本年も継続し西クラブと一緒に教育資材の支援など行なっていきたいと思っています。

6. 幹事報告

幹事 中西 秀文 君

○例会臨時変更のお知らせ

有田 2000RC 11 月 21 日(水)→11 月 22 日(木)

移動例会

12 月 19 日(水)→12 月 19 日(水)

クリスマス例会(へそまがり)

岩出 RC 12 月 13 日(木)→12 月 13 日(木)

19:00~

和歌山北 RC 12 月 17 日(月)→12 月 23 日(日)

17:30~ ホテルグランヴィア和歌山 6F

和歌山東南 RC 12 月 19 日(水)→12 月 24 日(月)

18:30~ ロイヤルパインズホテル
(クリスマス親睦家族例会)

○休会のお知らせ

有田 2000RC 12 月 26 日(水)

和歌山東南 RC 12 月 26 日(水)

岩出 RC 12 月 27 日(木)

和歌山北 RC 12 月 31 日(月)

7. 和歌山アゼリア RC

創立 15 周年チャリティーコンサートのご案内

和歌山アゼリア RC

吉岡 恵美 様 小形 みちる様

皆さん、こんにちは。今日は、少しお時間をいただき、和歌山アゼリア RC の創立 15 周年チャリティーコンサートのご案内をさせていただきました。平成 25 年 2 月 11 日(日・祝)に和歌山市民会館の市民ホールで開催いたします。



四つのテスト 言行はこれにてらしてから

- ①真実かどうか ③好意と友情を深められるか
 ②みんなに公平か ④みんなのためになるかどうか



事務所 〒642-0002 海南市日方 1294(海南商工会議所内)

電話(073)483-0801 FAX(073)483-2266

会長：花田 宗弘 幹事：中西 秀文 SAA：那須 正志

出演者も含め、全てクラブのメンバーで運営いたします。なお、チケット代金の1,000円は紀南水害復興資金に当てさせていただきます。ご協力宜しくお願いします。



8. 会員卓話

フィリピン・パラワン島の旅行報告 寺下 卓 君
今日は、私が、今年の8月にフィリピンのパラワン島へ行って来た話をさせていただきます。

まず、はじめに、私とフィリピンとの出会いについて、お話しさせていただきます。話は10年前に遡ります。私が初めてフィリピンに行ったのは、今から10年前の2002年。43歳の時です。確か、ロータリーに入会して2年目でした。2002年のちょうど今頃の例会の時でした。花田さんと林さんに「今度、海南東ロータリーで、はじめて、WCS(世界社会奉仕)でフィリピンのセブ島へ行くけど、寺下君、若いから、経験のため、一緒にいこう!」と誘われました。そして、急いでパスポートの申請をしたのを思い出します。私は独立して、今の会社を立ち上げてまだ、5年目で、従業員も少なく、ほぼ、一人で頑張っていた時期だったので、海外旅行とは、しばらく縁もなく、既に私のパスポートは期限切れで、急いでパスポートの申請をしたのを思い出します。余談ですが、この年、宇恵さんが会長の年度で、この年、フィリピンに行った後、オーストラリアの国際大会に、これも初めて連れて行っていただいた年で、私のロータリーでの海外デビューの年度でした。

まだ、ロータリーのことあまり解らず、何も知らない時、ましてや、ロータリーのWCSなど、チップ

ンカンのまま、急に参加することになったわけです。この時が、私の初めてのフィリピンでした。

そして、私はフィリピンのセブ島へ旅立ちました。フィリピンではマニラで飛行機を乗り継いで、セブ島に到着。空港でマンダウエ・イーストRCの出迎えを受けました。その後、WCSのプロジェクト視察で、給水プロジェクトや子供たちの栄養補給などの支援活動を視察しました。詳しいことは、話が長くなるので省略しますが、普段、観光では絶対に行かないスラム街やゴミだらけの中でひしめき合って暮らしている住民の人たちを見ました。日本では到底、考えられない所でした。悲惨な環境で、貧困に喘ぐフィリピンの人々の姿を見て、それは、びっくりです。でも、不思議とみんなは明るいのです。どこに行つ



てもニコニコと笑顔で迎えてくれます。そして、フィリピンのロータリークラブの活動を視察するうちに、私は「ここでは、ロータリーの活動がこんなに多くの困っている人々を支えていて、日本のロータリーとは、存在感や価値観がぜんぜん違う!」なんて、マジで感じました。まだ、自分は何もロータリーのことがわかつてないのに、ロータリーの活動の必要性、本来のロータリアンの姿を垣間見たような気がしたのです。私は、本当にカルチャーショックを受けてしました。

でも、今から思うと、後から、段々とわかつて来るわけですが、日本のロータリーの良さや必要性。とりわけ、私たちの海南東ロータリークラブの活動。5つの奉仕部門でバランスのとれた、私たちのクラブの活動は本当に素晴らしいと感じています。

そんな、初めてのフィリピン視察の中で、私は、マンダウエイーストRCのリトさんと初めて、出会いました。当時、リトさんは私より、2歳下の41歳。会話も、私の頼りない片言の英語でしか通じません。でも、年齢が近かったこともあって、なんとなく、馬があいました。以来、これが、きっかけで、長い付き合いが始まりました。私の仕事はコンピュータ関係なので、コミュニケーションはe-mailです。当時から、お互いインターネットを通じ、連絡や情報交換することができました。そして、丁度、この頃からです。私はフィリピンから日本に帰って、しばらくしてから、ちよくちよく、夜、アロチのフィリピンクラブに行き始めました。目的はもっとフィリピンを知り、言葉を勉強するためです。はじめは純粋にそのつもりでしたが、そのうち、なんか目的が変って来たのか?ちょっと、方向が狂い、綺麗なフィリピーナにはまってしまいましたが、しかし、きっかけは、全てロータリーでした。まあ、いろいろありましたが、私とリトさんの交流は途切れることなく、いつの間にか、ロータリー以外のプライベートでも個人的にフィリピンへ訪れ、リトさんや他のメンバーの人とも親しく会うようになりました。



そんな中で、2006年、私はフィリピンのもう一人の友人に出会うことになりました。ロータリーのWCSでは、確か4回目のフィリピン訪問の時だと思います。花田さん、一緒に行ったときです。トRCの新入会員の承りも、その新入会員は、たちは、向こうの儀式した。その彼女の名前いと思いますが、ジャ

林さん、田村さん、岩井さんと一緒に行ったときです。たまたま、マンダウェイーストRCの新入会員の承認式に立ち合ったのです。しかも、その新入会員は、とても綺麗な女性会員です。私たちは、向こうの儀式で、彼女の入会の証人になりました。その彼女の名前は、皆さんも知っている方が多いと思いますが、ジャスミンさんです。そして、その後も、彼女とは、リトさんと一緒に交流することになったわけです。

この間、リトさんは、3回、ジャスミンさんは2回、日本に来て、私たちのクラブへも訪問してくれています。これが、リトさんとジャスミンさんと友達になった経緯です。

そして、彼らとの友好の延長に、今回、パラワンツアーリーとなるわけですが、誤解を招くと困りますので、説明させてください。今から、3年前の2009年にさかのぼります。私は、地区のWCS委員会の視察で、セ



ブの山の小学校へ行きました。後に、2011年2月に、山畠さんが国際奉仕委員長の時ですが、皆さんにTVの中古を送る際、とてもお世話になったプロジェクトです。そし

て、マングローブ植林など、山畠さん、林さん、花田さん、宇恵さん、桑添さんと一緒に訪問した山の小学校です。この小学校へ初めて行った時の話を私は、幼なじみの同級生で、仲のよい飲み友達で、小学校の先生をしている女性、二人に話しました。すると、是非、今度の夏休みに連れていくと頼まれました。さらに、「私は、もう、50歳になったから、死ぬまでに、綺麗なセブの海でスキューバーダイビングをさせろ」と、強引に頼まれたのが、きっかけです。

私は、日本から、同級生とは言え、最終的に女性3人を連れて、フィリピンへ行くのは、どうかと思いました。いくら、行き慣れているとは言っても、悩みました。仕方なく、リトさんとジャスミンさんに相談したら「是非、来てください」でした。そんなことで、3年前にセブ島行きが実現しました。リトさんとジャスミンさんと



は現地で合流し、
楽しい旅と言う
か珍道中が始ま
りました。そし
て、昨年はセブ
の隣のボホール
島。今年はパラワン島
と3年連続で、8月の
夏休み、第1木曜から
日曜まで、毎年、フィ
リピンに行くことにな
ってしまったわけです。
ちなみに、来年
はパラワンの隣のコ
ロン島と言う島に行くこ
とが決まっています。



最後に、私のロータリー活動の中で、国際奉仕を通じて、知り合った、このフィリピンの友達や、また、台湾のロータリーの友達は、幸いなことに、今もインターネットのおかげで、ずっと交流が続いています。



の関係は、お金では買えないと思います。どつかのコマーシャルみたいですが。私は、仕事も、全然、成功していませんし、人間的にも今ひとつです。いつも調子に乗って、失敗ばかりで、みんなに迷惑をかけることもあります。

入会して13年目、ロータリアンとして、まだまだ奉仕できる人間には、なれていません。さらに、不景気で厳しい昨今、いつまで、事業を続けられるのだろうと不安もあります。しかし、いつか、奉仕できるような人になりたいと思い続けています。どうか、皆さん、長い目で、あたたかく、時には厳しく、ご指導くださいますようお願い申し上げ、卓話を終わります。ご清聴ありがとうございました。

9. 閉会点鐘

次回例会

第 1726 回例会 23 年 11 月 26 日(月)

12:30~ 海南商工会議所 4F

会員卓話 上海万博の報告 深谷 政男 君

11月はロータリー財団月間です



ニコニコ・BOX

- 花田 宗弘君 昨日、娘がオーストラリアにヨットで出航しました。
- 宇恵 弘純君 久しぶりに美人の吉岡さんの顔を拝見しました。お元気そうで何よりです。
- 中西 秀文君 昨年、東北大震災のボランティアに連れて行った息子が海南市消防局の試験に合格しました。
- 寺下 卓君 本日、卓話、宜しくお願ひします。
- 岩井 克次君 お見舞いをいただき、ありがとうございました。
- 吉岡 恵美様 本日は貴重な時間を少しだけ頂戴いたします。宜しくお願ひします。
- 小形 みちる様 (和歌山アゼリア RC)



国際ロータリー ニュース

世界ポリオデー（10月24日）世界のロータリアンは、さまざまなかたちでポリオ撲滅の重要性を訴えました。ドイツ：ロータリアンは、国有鉄道の協力を得て、ロータリーの歯車、「End Polio Now」のロゴ、さらに「撲滅まであと少し。手をつないで共にゴールを切ろう」というスローガンを大きく表示した列車の出発式を行いました。この列車は1年間、車両を牽引してドイツの主要都市を回り、行く先々のロータリークラブが、ポリオ撲滅におけるロータリーの長年の貢献に対する認識を高めるイベントを行います。5月4日にはドイツ全土で「ロータリー・デー」の行事が予定されています。



スイス：ロータリー国際事務局財団奉仕室のマネージャーは、吹雪の中で行われたルツェルン・マラソンに参加し、ポリオ・プラス基金のために1,023米ドルの募金を集めました。オーストラリア：ビクトリア州のあるロータークト・クラブは、オーストラリア・ロータークト大会の参加者、ロータリアン、インターラクター、その他の支援者を、首都キャンベラの国会議事堂に集め、世界ポリオ撲滅推進計画におけるロータリーとパートナー団体の活動の影響をアピールしました。南アフリカ：あるロータリークラブでは、地元の学校を巡回して、ポリオ撲滅の必要性についてのプレゼンテーションを行いました。モーリシャス：ポリオ・プラスへの募金活動、「End Polio Now」ボートレース、ドキュメンタリー「The Final Inch」の上映などを行いました。世界ポリオデーには、世界のロー

タリアンと支援者から31万米ドルを上回る寄付が寄せられ、世界中のポリオ撲滅支援者を動員するための「世界最大のCM」の立ち上げには、1,500人を超える参加者がありました。さらに、ツイッターやフェイスブックなどのソーシャルメディアから、ロータリーのメッセージを集中的に発信するキャンペーンには、50万人近くが参加しました。

また、世界ポリオデーの前後には、ジョン・ヒューコ事務総長がコロンビア大学のジェフリー・サックス教授と、有力なインターネット新聞「ハフィントン・ポスト」のブログを共著したほか、主要メディアがロータリーの取り組みを取り上げました。

世界ポリオ撲滅推進計画が始まった1988年以来、ポリオ感染数は99パーセント減少しました。しかし、ポリオ経験者であるインドネシアのロータリアン、ジョン H.G. ソーさんは、感染がまだ続いていることを強調した上で、今後ポリオによって人々が命の危険にさらされることがないよう、1日も早い撲滅のために力を合わせることが必要だと訴えています。

ポリオ撲滅自転車レースに 32万ドルを超える寄付

去る11月17日、米国アリゾナ州で行われた自転車レースに90人のロータリアンが参加し、ポリオ撲滅ために総額32万ドルを上回る寄付を集めました。

世界各国からの9千人の参加者と脚力を競ったロータリアンとその友人や家族の中には、ジョン・ヒューコ RI事務総長とマーガ夫人の姿もありました。事務総長夫妻が走行距離111マイルにちなんで設定した111,000米ドルという募金目標に対し、それを上回る寄付が寄せられました。

2009年に「End Polio Now」キャンペーンがこのレースの公式受益団体となって以来、ロータリアンがこのレースを通じてポリオ撲滅のための寄付を募ることができます。その年35,000米ドル集まった寄付は、年毎に増え続けています。今回のレースでは、ロータリアンがコースの給水所でレース参加者ののどを潤したほか、ポリオとロータリーの撲滅活動についてもっと知ってもらうため、ゴール付近に情報ブースを設置しました。

ロータリーは1985年以来、ポリオ撲滅パートナー団体とともに、世界でこの病気を根絶する取り組みを続けてきました。ポリオの感染数は現在、これまでで最低の水準となっており、2012年には10月30日までに世界で200件を下回っています。現在、野生ポリオウィルスが常に存在するのは、アフガニスタン、パキスタン、ナイジェリアの3カ国のみとなりました。



米国アリゾナ州で行われた自転車レースに90人のロータリアンが参加し、ポリオ撲滅ための寄付を集めました。